

委員の皆様へ 右端の関係者評価内に評価基準を参考に評価をお願いいたします。（参考までに項目下段に昨年度の自己評価を表記しております）

大項目	点検・評価項目	自己評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	現状と具体的な取り組み	今後の課題と対策	関係者評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	備考
I 教育理念・目的・育成人材像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	4 昨年評価 4	大阪滋慶学園のミッション（高等職業人教育を通して社会に貢献する）に基づき建学の理念を定めている。 建学の理念や教育目的・目標、育成人材像は、学則や学生便覧に明記している。現在4学科を設置しており、そのうち3学科が職業実践専門課程の認定を受けている。理念に基づき目的と育成人材像（3つのポリシー）を定め、ホームページや学生便覧に記載している。新入職者については、入職時オリエンテーションで周知できるようにしている。また、各学科の目標や育成人材像については毎年見直しをしている。	育成人材像については、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、各種の情報公開を通して、本校の建学の理念や教育目的に沿ってまた、近年の学生の特徴や社会のニーズに考慮した見直しをしていくことが必要である。	4・3・2・1	育成人材像としては、業界の認罪ニーズに適合しているものと判断いたしました。 チーム医療を担う学科そろっており、特色ある専門学校と認識しています。地域医療に向けて、更なるニーズの適合を期待します。
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3 昨年評価 3	各学科においては「3つのポリシー」に基づき、教育目的・教育目標・教育方針を明確に立て、専門職業教育とキャリア教育の実践による職業人教育を行っている。また、教育の質向上を図ることを目的に、業界人材ニーズに適合するための取り組みとして、実習施設、職能団体、就職フェアや学校関係者評価委員会と教育課程編成委員会等外部の意見を取り入れてる。	業界の人材ニーズに適合するために教育をおこなっているが、まだ十分にニーズに適合しているとまでは言い難い。引き続き各業界や学校関係者評価委員会と教育課程編成委員会等外部の意見を取り入れていく必要がある。実習施設など業界が求める人材像や、各学年での必要な修得スキル等、情報収集を行い、人間教育を含めた人材育成の教育課程の編成を行っていきたい。今後、新型コロナウイルス第5類以降に関連した実習の取り扱い変更もあるため感染症拡大時等の実習のあり方や配慮事項など、実習施設など業界からの意見や情報収集を行い、最善の教育課程の編成を行っていき、各学科の新カリキュラムを通して業界が求める人材などの育成に尽力していききたい。	4・3・2・1	
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3 昨年評価 3	教育理念の【国際教育】においては、海外研修プログラムがコロナ禍で渡航して行うことができず、現地とオンライン繋ぐハイブリッド型で実施している。教育課程編成委員会で意見交換を行い、カリキュラムの改善や学生教育指導における教科教授法などに活かしている。また、卒業課題研究などの教育プログラムを実践している。 また、本校の特色として、導入教育の一環として早い時期から入学前教育のプレカレッジをサキトレとプレカレッジと内容を2段階に分け実践している。	海外研修プログラムについては、引き続き現地とオンラインでのハイブリッド型で実施しているため、渡航しての対面型と同等の教育効果が得られるように今後も検討を重ねていく。 教育活動については、特色あるものにしていくために今の取り組みを継続し今後も検討を重ねていく必要がある また入学前教育も入試の時期によりプログラムの計画が難しいが、学校全体ではなく、学科毎に個別性を伸ばせる入学前教育を工夫をしていきたい。	4・3・2・1	
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	3 昨年評価 3	7期5か年計画の2年目がスタートし、看護学科でのICT教育としてデバイスを活用した電子教科書の導入など学生ひとり一人にデバイス保持を推奨している。また、就職を基本とするが、臨床工学技士学科や理学療法士学科での、大学編入等進路の多様にも対応している。 Teamsを導入し、電子書類の共有やペーパーレス化を図っている。看護学科全学年が新カリキュラムであるが、R5年度よりICT教育として電子教科書の導入を実施。メリット・デメリットも踏まえ、適宜効果的な教育をできるよう学科で検討している。	理学療法士学科で島根県で初の大学卒業資格を取得できる専攻を立ち上げたが、学内科目と並行して学習できるサポートと将来の幅を広げるプラスαの学びを学生にどのように周知していくか、また、臨床工学技士学科が新カリキュラムでスタートしたが効果的な教育をできるよう学科で検討していく。 電子書籍や電子媒体を導入しているがまだまだ活用できるすべはあると考える。一貫したペーパーレス化や効率化を重視できるよう今後模索していく。 電子教科書の取扱いについて教員側もその内容を熟知し活用していくことが今後の課題である。	4・3・2・1	

委員の皆様へ 右端の関係者評価内に評価基準を参考に評価をお願いいたします。（参考までに項目下段に昨年度の自己評価を表記しております）

大項目	点検・評価項目	自己評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	現状と具体的な取り組み	今後の課題と対策	関係者評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	備考
Ⅱ 学校運営	2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか	4 昨年評価 4	建学の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」に基づき、健全な学校運営が出来るよう学校の基本数字である「5つの数字」に対して、教職員一人ひとりが目的意識を持ち、目標達成できるように努めている。 5つの数字とは、①入学者数②退学者率③就職内定率④学費未納者数⑤国家資格合格率である。今年度の重点課題は①入学者数⑤国家試験合格率である。	勤務年数の長い教職員に対しては基本数字の「5つの数字」の周知と目標に対して実行できていると思うが、勤務年数の浅い教職員の理解度に差があることや、数字目標も修正が出てくるので、4半期ごとに振り返りしながら軌道修正を行い、基本数字達成に向けて教職員一同に周知していく。	4・3・2・1	
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	4 昨年評価 4	7期5か年計画の1年目である。内容としては、予算計画(5年間)、運営・実行方針(学校全体、広報、教育、就職、リスクマネジメント、コンプライアンス、働き方改革等)であり、それを定量目標と定性目標で明確にしている。	事業計画を円滑に進めて行くために、4半期ごとに振り返りをし、問題点の抽出とその解決策を図っている。また働き方改革や研修計画があり、人材育成と環境整備を実施し、組織のレベルを上げていきたい。	4・3・2・1	
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4 昨年評価 4	法令に則り、理事会、評議員会が開催され、法人の運営状況を確認、検証している。その結果を議事録に適切に残している。法人各校の運営状況を確認し、その状況を会議で共有し、各校の運営に活かしている。	特になし	4・3・2・1	
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	3 昨年評価 4	本学園の会議では各校の管理・運営状況を確認し、情報を共有することであらゆるリスクに関して、迅速な対応ができるようになっている。また、適切な運営ができているかどうか学内の各種会議等で確認、検証し、さらに各種委員会を通じて、教職員へ報告・連絡、情報の共有を図っている。	組織を運営するための体制は整備しており、各種会議や委員会などの情報共有と各部署の連携強化を定着させたい。そのために、次年度は（教務部）（事務部）（広報部）の3部制に組織体制を変更し、それぞれの部署で目標達成できるように取り組んでいく。	4・3・2・1	
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	4 昨年評価 4	人材要件や採用要件など給与支給に関する規定などは、就業規則の通り運用している。所属長により個々の目標設定に基づき職員評価を行い、次年度の課題を設定するなど教職員の質向上に努めている。毎年、パーソナルアンケート(教職員意識調査・働き方改革)を実施している。	人事考課制度により、適正な人事を行っている。パーソナルアンケートにより各職員の意見も反映されるようになっている。またより良い人材育成の理念の徹底や研修、グループ校との交流などを図りたい。	4・3・2・1	
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	4 昨年評価 4	会議規程を基に各委員会や会議等を実施している。各種会議やミーティングで教職員間の情報共有を行っている。	各種会議ミーティングの他に情報共有ツールとしてTeamsやGaroonなどをもっと有効活用して行く仕組みづくりを構築していきたい。	4・3・2・1	
	2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3 昨年評価 3	基本的にはAS400という業務システムで情報を一元管理している。このシステムと連動した業務システムの導入で、各セクション（広報・教務・就職）におけるデータ管理が行いやすく、入学前から卒業まで管理できる。教職員全員が使用するシステムよりAS400との連動を図れるようになった。学生等の情報がより幅が広がった。	1人1台のPC保有で、業務システムでは一連の流れで情報共有ができるが、システムを有効活用できる教職員を増やしていくことが必要と考えている。業務システムが拡大したことで使用できるコンテンツも多くなっている。使用方法等を教職員全体に広めていき全員が同じレベルで使用できるように図りたい。	4・3・2・1	

委員の皆様へ 右端の関係者評価内に評価基準を参考に評価をお願いいたします。（参考までに項目下段に昨年度の自己評価を表記しております）

大項目	点検・評価項目	自己評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	現状と具体的な取り組み	今後の課題と対策	関係者評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	備考
Ⅲ 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4 昨年評価 4	学生便覧および教育指導要領で、人材養成目的・目標を明確にし「3つのポリシー」の設定をしている。具体的な定量目標としては、退学率、進級および卒業率、就職率、国家試験合格率などがあり、それを定性目標として示す年間教育プログラム(学年ごと入学前教育～卒後教育)に取り込むことにより、知識・技術の修得や国家試験および就職に対しての成果(目標到達)を出す教育システムがある。	定性目標については、今年度の実績を踏まえながら、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会での意見を参考に検討を重ねて教育改善を図っていく。	4・3・2・1	業種的に語学教育の重要性が増してきていると思います。外国籍の対応や外国の方と接する機会も増えてきております。特に英語が多く、実際に働く段階で求められることもあると思いますが、ご学校語学に関して今後どのようにしていくかも必要な観点かと思います。
	3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4 昨年評価 3	学生便覧および教育指導要領に明記している。科目ごとの到達目標や評価については、教務システム内で成績管理を行い、学科内で周知している。また、到達目標や評価については、成績等を踏まえて検討し見直しを行っている。	到達レベル、到達目標や評価については、引き続き検討、見直しをしていく。	4・3・2・1	
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4 昨年評価 4	教育課程の編成については、国家資格系の養成施設の指定規則に基づき組み立てられているため、授業形態や教育内容など段階的に効率よく学習できるようになっている。非国家資格系学科については、幅広い進路選択と資格取得ができるように柔軟性をもって学習できる体制になっている。学習指導に有効的に運用している。	教育目的・教育目標の見直しに伴って学生の背景や学習状況など考慮し、教育課程についても引き続き、見直しをしていく。	4・3・2・1	
	3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか	3 昨年評価 3	指定規則から大幅に変えることはできないが、付加価値教育として、業界情報や教育課程編成委員会の意見も参考に、教科外授業で実践するようにしている。特筆することとしては、チーム医療を学ぶための合同研修、第2種ME検定を任意で受験できるようにしている。教科授業内でもフィールドワークとして学生が地域へ出かけていく時間を設けている。その他にも各学科により推奨する資格検定対策を行っている。	引き続き、教育課程編成委員会や臨地・臨床実習先など業界や外部の意見も反映させながら、業界ニーズにあった人材育成のために教育課程について、独自のカリキュラムを入れるなど構築していく。また、社会や業界のニーズに合わせ取得できる検定等を検討し知識技術の向上を図っていきたい。	4・3・2・1	
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	3 昨年評価 3	本校では入学前から卒業後までをキャリア形成(入学前教育)、キャリア設計(在学教育)、キャリア開発(卒後教育)と考えており、キャリアデザイン講座を1年次より実施している。入学前教育について、多様な入試形態を踏まえて、プレカレッジの内容を充実させ、入学後につなげている。卒後は、卒後勉強会を同窓会時に実施している。	引き続きキャリアデザイン講座を実施していく。卒後教育についても同窓会などの機会を有効活用し、さらなるキャリア開発に努めていきたい。	4・3・2・1	
	3-9-4 授業評価を実施しているか	3 昨年評価 3	科目終了時に授業ごとに評価内容は、10項目とし、5段階評価で実施している。実施が終わったものから担当教員にフィードバックしている。非常勤講師へのフィードバックは、一部にしかできていない。	担当教員へのフィードバックはしているがそれがどう反映しているかまで評価できていない。評価内容をどのように反映していくか、今後は具体策を検討していく必要がある。現状、非常勤講師へのフィードバックが不十分である。今後、非常勤講師の意見も取り入れながら、どのようなフィードバックの形がいいのか具体策を提示していく。	4・3・2・1	

令和6年度 学校法人大阪滋慶学園 出雲医療看護専門学校 学校関係者評価委員会資料						
【2024年6月8日】						
委員の皆様へ 右端の関係者評価内に評価基準を参考に評価をお願いいたします。（参考までに項目下段に昨年度の自己評価を表記しております）						
大項目	点検・評価項目	自己評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	現状と具体的な取り組み	今後の課題と対策	関係者評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	備考
Ⅲ 教育活動	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4 昨年評価 4	学則(基準の設定等)に基づき、卒業判定会議、進級判定会議、既修得単位認定会議などを通じて成績評価や単位認定を行っている。各科目で到達目標をシラバスで定め、試験において評価している。	引き続き、学則に基づき成績評価・修了認定基準を明確化し、各種会議等で運用していく。	4・3・2・1	低学力者への早期対応は退学率の低減にもつながるので、指導・相談体制の整備は、是非力を入れております。
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	4 昨年評価 3	学内選考会を先行して実施し、各科優秀演題を学内全体で選考し、各科優秀演題は、卒業・課題研究発表会を開催している。毎年、学習成果を業界・出身校・地域・保護者へ発信している。	これら取り組みは多くの方に発信できるような仕組み作りと早期の告知が必要である。関連業界や高校の先生方にも多くの出席をしてもらえるように図っていきたい。	4・3・2・1	
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	4 昨年評価 4	看護学科、理学療法士学科、臨床工学技士学科については国家資格取得は各養成課程の最重要目標として位置付け、医療総合学科については、活躍できるフィールドが多岐にわたることから多様な資格取得を目標にしている。	全員が資格取得できるように対策講座の充実や教授法など工夫するとともに、各学科で共有できるものは連携し、資格取得向上のために引き続き実施していく。	4・3・2・1	
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	3 昨年評価 3	全員を合格させることを前提とし、国家試験対策委員会を立ち上げ、4月より活動を開始している。前年度の結果を踏まえ目標と対策の見直しをしている。学園グループの国家試験対策センターと学内の国家試験対策委員会が連動し、教育内容を確認しながら取り組んでいる。低学力者への早期からの対応や、国家試験不合格者の卒後のフォローなども各学科で担当、目標設定と対策の計画を立て学生指導にあたっている。	引き続き、学園グループの国家試験対策センターと学内の国家試験対策委員会が連動し、教育内容を確認しながら、取り組んでいく。国家資格も実習現場での内容が求められるようになり、実習指導者との連携も重要になってくる。低学力者への早期からの対応や、国家試験不合格者の卒後のフォローなど個々の対応や学習内容を検討していく。毎年学生の状況が変動するため指導体制の再構築をしていく必要がある。	4・3・2・1	
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4 昨年評価 4	全ての学科において、各要件を満たした専任教員を配属している。また担任マニュアル等を有効活用し、教員の資質向上に努めており、講師研修等も実施し、情報の共有にも努めている。教員不足が生じている学科に対して採用計画を立てている。	要件を満たしている教員を配置しているが、より良い人材育成・より良い学生指導のために、質の向上を目指し、引き続き教育力向上に取り組んでいきたい。研修案内の積極的な周知や参加希望者への受講調整など、教育指導との両立も図りながら調整することが課題である。	4・3・2・1	
	3-12-2 教員の資質向上への取組を行っているか	4 昨年評価 4	専任教員は本学園全体の教員研修や学会等があり、入職よりキャリアに合わせFD研修やマネジメント研修へ全教職員を参加させている。本校独自の教員研修・事例研究会等も開催し、資質の向上に努めている。講師には講師会議や講師研修会を通じて、本校の教育に理解を得られるように努めている。職能団体など外部の研修にも参加している。また学内においても教務・広報・事務の枠にとらわれないように教職員研修を実施している。	引き続き学園全体の研修に順次参加できるようにし、その研修を基礎として有効活用していく。職能団体など外部の研修など参加できる環境を引き続き継続していく。今後研修への参加回数を増やしマルチに対応できる人材の育成を図りたい。	4・3・2・1	
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	4 昨年評価 3	学校長を教育の統括責任者として、看護系およびリハビリ・医療系と大別される。現場の統括は副学校長・教務部長が行い、各学科は学科長を中心とした組織の運営体制を敷いている。学科間の連携は、学科長会議・全体会議を通じて組織連携を図っている。また講師との連携については、講師会議を開催し協力体制を整えている。	教員の組織体制については概ね整っているが、必要に応じて体制の見直しをしていく。	4・3・2・1	
Ⅳ 学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	4 昨年評価 4	毎年、就職率100%を継続している。また最終学年だけでなく、在学中からキャリアデザイン講座や就職フェアなど就職意識の向上に努めている。キャリアセンターと最終学年担当教員との連携により就職指導を行っている。年々就職内定時期が早くなる傾向があり、キャリアデザイン講座の実施を1年次より実施している。求人状況は、県内外共に増加傾向であり、特に看護学科は年内全員内定で、県内就職率が60.3%となった。	引き続き、キャリアセンターと教員が連携し、一人ひとりに対して希望が叶うように指導していく。 求人状況は看護学科以外は県内求人の新規開拓ならびに職域拡大を引く続き行い、県内求人確保を強化していきたい。	4・3・2・1	学生自身が客観的に評価できる能力を伸ばすことができる取り組みはされているか？今後、自身が評価できることが必要と思います。
	4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	3 昨年評価 3	国家試験100%に向けた取り組みとして、学園グループの国家試験対策センターや各教育部会で情報共有や対策などについて検討している。 学内においても低学力者へのフォローや、入学前教育から1.2年生での基礎学習と復習などを各学科や学習サポートセンターが実施している。	引き続き、国家試験100%に向けた取り組みを学園グループの国家試験対策センターや各教育部会で検討していく 低学力者へのフォローの在り方や、入学前教育から1.2年生での基礎学習と復習など検討していく。また学科間の情報共有を行い取り組みの幅を広げ国家試験の合格率向上へ繋げていきたい。	4・3・2・1	
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	3 昨年評価 3	毎年、業界訪問により求人や内定に対するお礼と卒業生の状況把握を行っている。卒業生の現況確認のために、卒業生の就職先に対する動向調査(主に離職について)を実施している。また、学園グループで卒業生アンケートの実施や、出雲単独で同窓会の実施で、現況の確認を行っている。 研究業績等をすべて把握しているわけではないが、業界との連携や卒業生とのつながりで、情報確認はしている。 学園として、大学・大学院進学などリカレント教育の提供も可能である。	引き続き、在学時に職業適性の確認や職業態度教育の強化を図るなどディプロマポリシーに基づく教育プログラムの再構築をしていく。 また卒業生に対して同窓会を実施し、卒業生の状況把握をするとともに、学ぶ機会を増やしていく。	4・3・2・1	

委員の皆様へ 右端の関係者評価内に評価基準を参考に評価をお願いいたします。（参考までに項目下段に昨年度の自己評価を表記しております）

大項目	点検・評価項目	自己評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	現状と具体的な取り組み	今後の課題と対策	関係者評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	備考
Ⅴ 学 生 支 援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4 昨年評価 4	就職および進学指導については、キャリアセンターと学科教員と情報共有し学生の活動状況を確認しながら、対面を中心として個別面談で個々への対応を行う。 また、1.2年生を対象としたキャリアデザイン講座では、就職活動における留意点（マナー、服装、言語、文書作成、受験までの諸手続き等）やエントリーシートおよび履歴書、病院訪問の仕方、模擬面接などをキャリアセンターと教員の連携により実施している。 就職フェアを3月に実施することで就職に対する意識付けになっている。	引き続き、入学前のプレカレッジからの将来を意識した内容になるように検討していく。就職フェアの時期については今後も募集状況等をみながら検討していく。また、法人主催の大阪での就職フェアの有効活用については、今後も検討していきたい。	4・3・2・1	現状可能な対応はできていると判断いたします。学生の状況が多様化している状況であり、いくらかの退学者がでることは仕方がないと考えます。 学内での進路変更を考慮するなど発想の転換により退学率への低減も腹がでるのではないかと考えます。
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	2 昨年評価 2	学科別に退学の要因や人数把握をしている。退学の理由としては、学力不振、交友関係、学習意欲低下、体調不良などである。最近は、体調不良でもメンタル面が多い傾向である。 令和5年度：5.4%（20人／372人） 学生サポートアンケートの有効活用と学生観察し、声掛け・励ましで早期に学生の変化に対応し、すぐに面談を実施し保護者への連絡も密に強いている。スクールカウンセラーや学習サポートセンターの活用もしている。メンタル面のサポートに長けた教員を他学科にも紹介し、学校全体でサポートを行っている。	引き続き、退学要因の把握とその対策、学生サポートアンケートやスクールカウンセリングの有効活用、学生、保護者の面談を充実させていく。また、教職員向けの研修を実施し退学者ゼロに向けて教職員の意識付けもしていく。	4・3・2・1	
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	4 昨年評価 4	入学前から学校説明会での保護者対象説明会でもサポート体制の説明を行い、入学後もオリエンテーションや学生便覧に記載して周知している。またメンタル面の対応についても、キャリアサポートアンケートを実施し、メンタル面の状況把握も行っている。教員全員がグループでのカウンセリング研修を受講しており、教職員面談からカウンセラーにつなぎ、専門的支援を受けれる体制を構築している。	引き続き、カウンセリングについては、本校独自のカウンセラーや滋慶グループの滋慶トータルサポートセンターが運営しているSSC（スチューデントサービスセンター）などオンライン導入による利用しやすい環境づくりとシステムの再構築を図る。	4・3・2・1	
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか		留学生はなし	今後、体制作りを行っていく。	4・3・2・1	
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4 昨年評価 4	大阪滋慶奨学金として、兄弟姉妹が卒業生、在校生の場合は、10万円給付としての制度を設けている。経済的支援については、日本学生支援機構の修学支援制度（給付型、減免型）を活用している。学費については、年間学費の案内はするが、家庭状況もあるので、分割制度も実施し、各家庭の予定に合わせて、納入時期金額を決めている。	引き続き、奨学生が多いと学費の分納も多くなり、学費担当と奨学金担当の連携が必要となるため、学費相談ができる人材育成をして学生相談できる体制と教務部（学科長）との連携で早期に学費未納をなくす体制を構築していく。また、早期からの保護者・学生への状況確認と社会資源の活用についても取り組んでいく。	4・3・2・1	
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4 昨年評価 4	定期健康診断については、1回/1年は実施し、記録も保管している。グループとして慶生会クリニック（本部東京）が統括管理している。 毎年1次検診は100%である。	健康管理について、2次検診の100%受診になるように引き続き状況確認を行い健康管理に努めるていく。	4・3・2・1	
	5-19-3 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	3 昨年評価 3	1人暮らしの学生支援活動として、学生専用（本学生専用）アパートや学生シェアハウスについて学校説明会やオープンキャンパスを通じて紹介をしている。管理については、それぞれの物件に大家がおり、管理してくれている。	現在、3つの学生アパートと1つのシェアハウスが本校学生専用となっているが、遠方からの進学希望者が増えてくとも考えると物件対策が必要である。また一人暮らしセミナーなど生活面の不安を軽減できることの機会を増やしていきたい。	4・3・2・1	
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	4 昨年評価 3	課外活動は、学友会組織で運営され、学園祭や体育祭、各種イベント等の支援を行っている。 学友会活動目的は学生便覧に明記しており、万一の怪我の時も学生保険が適用されるようになっている。	課外活動については、コロナ禍でクラブ活動も縮小していたが、クラブ活動も徐々に増えてきている。第5類移行に伴い学生の自主性も重んじながら学生のやりたいを実現できるように体制を整え可能な限り支援していく。	4・3・2・1	
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	3 昨年評価 3	学校行事として毎年4月（3年生）と9月（1.2年生）に保護者会を開催している。また学生状況で問題が生じたときや気になるときはその都度電話連絡や来校していただき、面談（保護者面談・三者面談）を実施し、記録も業務システムに残している。	入学前保護者説明会や入学後の保護者会において、学費支援や学校生活（学校行事など）などの理解を深めるため内容を再検討する。また保護者への情報提供体制を準備していく必要があり、媒体の活用についても検討していく。	4・3・2・1	

令和6年度 学校法人大阪滋慶学園 出雲医療看護専門学校 学校関係者評価委員会資料						
【2024年6月8日】						
委員の皆様へ 右端の関係者評価内に評価基準を参考に評価をお願いいたします。（参考までに項目下段に昨年度の自己評価を表記しております）						
大項目	点検・評価項目	自己評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	現状と具体的な取り組み	今後の課題と対策	関係者評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	備考
Ⅴ 学生支援	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	2 昨年評価 2	卒業生を対象とした同窓会組織を設置している。同窓会組織は会員である卒業生の親睦を深める目的であり、R5年度は卒後研修会として勉強会をメインとして実施した。同窓生も集まり情報共有を行うことができた。就職・転職支援等もしており、年2回発行の学園新聞を通じて母校を利用してもらうようにしている。	第1回の同窓会活動の実施し、卒後教育(継続教育)に対しての研修会を実施することができた。今後も卒業生の学びの支援をどのようにしていくかが検討課題である。 資格取得者の卒後支援についてはリカレント教育の計画が必要である。法人としては滋慶医療科学大学・大学院を設置しており、進学・研究できる体制はあるが、身近に学べる環境や、多様な資格取得等の計画も必要である。同窓会活動の一環で卒後勉強会を行ったが、学科での分科会も今後実施し、さらなるスキルアップができる場を提供していきたい。	4・3・2・1	
	5-21-2 産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	2 昨年評価 2	産学連携の教育プログラムについては、各学科において検討段階であるが、各職能団体で実習指導者会議などより良い人材育成教育のための連携は実施している。また大阪滋慶学園として経営管理研修センターのセミナー等の案内は学園新聞を通じて案内は実施している。	卒後勉強会をきっかけに各分科会の実施や産業・官公庁の連携を図っていく。卒業生が困っていることを把握し、今後は求められる研修を検討し実施していく。 職能団体との連携についても定期的には実施できているが、こちらからの働きかけが少ない為、今後はその部分も検討していく必要がある。より多くの卒後教育環境を提供するためにオンラインも有効活用できることを踏まえ、具体的に策を練っていく。	4・3・2・1	
	5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3 昨年評価 3	図書室や施設利用など学ぶ環境を整備しており、また入学前からも既修得単位の認定の説明なども行っている。経済的なサポートとして、専門実践教育訓練給付金制度等を活用できるようにしている。	社会人の環境整備として、いつでも学べるための施設確保が必要で、図書室の利用率向上や演習室の効率的な使用を引き続き検討していく。また学びを継続できる環境として学費面を整えることも必要であり、専門実践教育訓練給付金制度等を全学科対象となるように努めていきたい。	4・3・2・1	
Ⅵ 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3 昨年評価 3	5年後までの修繕計画をし、長期的に安定した施設管理をしている。教育用具については、必要備品はそろえている。	引き続き、空調や防火設備等にも予算を配分できるように、修繕や改修については全体をみながら計画していく。また、新カリキュラムで必要になる備品購入検討や厚生労働省からの推奨備品の考慮、実習や演習等で使用する機材をリスト化し順次購入検討を図りたい。学生がより良い環境で学習できる体制を整えていく。	4・3・2・1	
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3 昨年評価 3	全科で学外実習は科目として取り組んでおり、各実習ごとに要綱を作成し、目的を明確にしている。職業実践専門課程の質の向上として現場実習については、お互いの意見交換や情報共有により、即戦力としての人材養成に務めている。 海外研修は、新型コロナウイルス感染症以降、物価の高騰等もあり海外渡航の実現が難しく、海外提携校とのオンラインでつなぐ国内研修プログラムを実施した。	実習については、概ね実習施設の協力のもと実施することができたが、コロナ禍明けで、第5類移行後もまだ制限もあるなかで、より良い実習の仕組みづくりを施設側と連携して構築していく必要がある。 海外研修についても、オンラインで現地学生との交流はあるが、異文化交流で国際的視野が得れる内容で充実させたい。	4・3・2・1	
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3 昨年評価 3	R5年度は、5月に新入生を意識した避難経路の確認をメインとしたは消防避難訓練を実施。11月に地震を想定した安全確保訓練と、同時に火災が発生したことを想定した避難訓練を実施し、年間2回実施した。防火管理者が中心に、避難方法や消火活動等であり、今後、学生自身が医療従事者となる心構え、身構え、気構えを学ぶ機会とした。	地震や火事等いろいろな有事を想定した訓練を年複数回行える体制と臨機応変に対応できる組織づくりが必要であり、事前告知なしの訓練や地域と連携した訓練等も可能なら取り入れて数回実施を検討していきたい。	4・3・2・1	
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3 昨年評価 3	危機管理マニュアルを作成し、緊急時の体制の構築はできている。また、日常についても安全衛生推進者を任命し、日々の安全管理も定期的に行っている。 学生の安全確認はグループで安否確認システムを学生全員に登録している。 緊急時の備蓄についても進めている。	危機管理マニュアルはあるが、有事の際の人員配置等臨機応変さが求められるので、今後も訓練の複数実施や少人数出勤時での訓練も検討する 緊急時の備蓄等についても管理等のシステムづくりが課題である。	4・3・2・1	

委員の皆様へ 右端の関係者評価内に評価基準を参考に評価をお願いいたします。（参考までに項目下段に昨年度の自己評価を表記しております）

大項目	点検・評価項目	自己評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	現状と具体的な取り組み	今後の課題と対策	関係者評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	備考
Ⅶ 学生 の募集と受入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	2 昨年評価 3	媒体業者を通じて、高等学校の進路説明会や各エリアでの会場ガイダンスに参加している。広報担当者や学科教員が定期的に高校訪問を行い、学生状況や入試等の情報提供を行う。高校訪問に関しては、420件と状況を確認しながら実施。在校生・卒業生情報の提供を行なった。また職能団体と連携して、高等学校のみならず、職業理解の観点から中学生対象のイベントや地域貢献の一環としてイベント等も行った。	引き続き、高校訪問に関しては、状況を確認しながら実施。在校生・卒業生情報の提供を行なっていく。今後も高等学校のニーズに合うように連携授業も実施し、更に連携数を確保していきたい。	4・3・2・1	
	7-25-2 学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	2 昨年評価 3	島根県専修・各種学校連盟のガイドラインで総合型選抜（A0入試）のエントリーは7月、出願は8月と推奨していることもあり、島根県内の高等学校で7月エントリーとしたが、他府県については、6月エントリーとした。また高等学校の意見も聞きながら入試日程を設定している。学校説明会も複数のタイプの説明会を設け、それぞれのニーズに合うように開催している。また、平日等も含め個別相談も実施し、入学志願者の希望に沿って相談ができるような体制を整えている。	引き続き、学校説明会も毎月実施し、入学希望者がいつでも来校できるように設定し、入学試験も7種類設定し、受験者ニーズに合うように取り組む。看護学科を中心に大学受験者層の取り込みが不十分であったこと、臨床工学士学科については、職業認知不足ということもあり、募集目標が未達であった。今後、説明会や入試の日程を再度検討していくと共に学科情報や業界情報を積極的に発信していく。	4・3・2・1	
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3 昨年評価 3	各法令等のルール等を尊重し、「入学試験に関する規定」に則り、明確にしている。入学選考基準については、規定に基づき、入学試験の種別、受験資格などを定め、募集要項に反映し、試験後には可否基準を基に入試判定会議を開催し、可否決定を行っている。	現状、適切に運用しているが、今後は入試の早期化が進んでくるため、A0入試（総合型選抜）の入試内容等の精査、運用を図る。	4・3・2・1	
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3 昨年評価 3	学科毎に出願者数と合格者数と辞退者数を年度ごとにテータ管理している。入学生個々の学校偏差値、評定、試験結果など学習状況を一覧化し、学力における弱点を補うために入学前教育のブレカレッジを実施している。また、総合型（A0）入試受験者を中心に、入学後の環境づくりと学び方を修得する目的として「サキトレ」を実施した。また、並行して基礎科目の通信教育も行い、学力把握のために確認テストを行い、テスト結果から学習サポートも実施し、基礎学力向上を図っている。	引き続き、学校偏差値と評定と欠席日数を受験科目の点数を一覧化していく。面接内容等も記録や学習習慣等の把握もしていく。また1年次の確認テストの結果と連動させることで、認定試験の結果を踏まえた対策を検討していく。教務システムに高等学校の評定等も確認できることから、学生指導ならびにクラス運営の向上に役立てていく。	4・3・2・1	
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4 昨年評価 4	学費については、事業計画で、収支計画を立て、理事会を経て決定している。諸費用についても各学科で毎年精査し、余剰が大きくならないようにしている。学費および諸経費については、ホームページや募集要項に記載し、学校説明会や保護者説明会で説明している。	諸経費については、毎年変動していくものであり、近年物価高騰による価格上昇で、慎重に精査しているが、ICT化により、タブレット等の端末と通信環境整備なども合わせて随時検討していく。	4・3・2・1	
	7-27-2 入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	4 昨年評価 4	学額辞退者には、3月31日までに辞退の連絡をいただければ、返金手続きを行うこととしている。募集要項にわかりやすく記載している。	募集要項にわかりやすく記載はしているが、併願者も多く、期限ギリギリまで連絡が取れないまたは最後まで検討していく方に対してのこまめなフォローを徹底していく。併願者の方で、入学金等の納入もなく、連絡も取れない方への対応は課題である。	4・3・2・1	

令和6年度 学校法人大阪滋慶学園 出雲医療看護専門学校 学校関係者評価委員会資料

【2024年6月8日】

委員の皆様へ 右端の関係者評価内に評価基準を参考に評価をお願いいたします。（参考までに項目下段に昨年度の自己評価を表記しております）

大項目	点検・評価項目	自己評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	現状と具体的な取り組み	今後の課題と対策	関係者評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	備考
Ⅷ 財 務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3 昨年評価 4	学校としては入学生数確保が苦戦しており、定員充足率は60％台となっており、厳しい学校運営である。しかし学園全体としては収支差益も黒字で、定員充足率は90％を超え財務基盤は安定している。本校では入学定員数の確保に尽力し、借入金返済も考慮に入れて、バランスの取れた収支になるように計画し、実践している。	経費の見直しや収入の増加によって現金預金を増やし資金的余裕を持たせるため、内部では定期的な財務数字の把握、会議等の打合せを綿密に行っていく。 また、外部では監査法人等の会計監査人から定期的な監査を通じて専門的な立場によりアドバイスをもらい、問題解決につなげていく。	4・3・2・1	私立学校法の改正による対応はどのようにされていますでしょうか。次回内容ふれていただければと思います。
	8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4 昨年評価 4	直近3年間の収支状況による財務分析と財産目録・貸借対照表による財務分析を行い、比較している。	特になし	4・3・2・1	
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4 昨年評価 4	・事業計画は運営方針に基いて計画され、収支計画も運営方針に基いて計画される。収支計画は学科ごとの入学目標、在籍者目標数で計画。 ・収支計画は5ヵ年を見据えた中長期計画と、1年間の予算を計画する短期計画がある。この計画の基で、年間予算を編成する。	予算編成を中長期と短期で立てているが、社会環境の変化などで中長期の見通しをその都度検討していく必要がある。	4・3・2・1	
	8-29-2 予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	3 昨年評価 3	事業計画のもと、適切に執行している。	事業計画のもと適切に執行しているが、入学生と進級生の在校生数が予算となる。学生募集の達成と退学者の減少が事業計画で重要であるので、その点を改善できるようにしていく。	4・3・2・1	
	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか	4 昨年評価 4	監事による監査は、専門家である公認会計士との意見交換を通して学校・法人に対してヒアリング・指導を受けている。また、会計監査人による監査は期中監査及び期末監査（年度決算に向けての会計帳簿・証書類等の内容確認等）を受けている。	特になし	4・3・2・1	
	8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	4 昨年評価 4	本学園の閲覧に関する規則に基づき、情報公開・閲覧に関する体制を整えており、常務理事の統括のもと事務局長・事務局次長が現場責任者を務めている。また法人のホームページにて、財務諸表（財産目録、貸借対照表、収支決算書）、事業報告書、監査報告書等を公開している。	特になし	4・3・2・1	

令和6年度 学校法人大阪滋慶学園 出雲医療看護専門学校 学校関係者評価委員会資料						
【2024年6月8日】						
委員の皆様へ 右端の関係者評価内に評価基準を参考に評価をお願いいたします。（参考までに項目下段に昨年度の自己評価を表記しております）						
大項目	点検・評価項目	自己評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	現状と具体的な取り組み	今後の課題と対策	関係者評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	備考
Ⅸ 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4 昨年評価 4	本校としては設置基準・法令の遵守に努めており、各学科養成所指定規則に則って運営している。また学園としてもコンプライアンスの遵守を重視している。行政へも毎年定期報告を行い、学則変更等がある場合は適宜、申請書や届出書を提出をしている。	法令の遵守は徹底しているが、法令や指定規則の内容を職員全員が理解できるような体制を構築していくことで、届出等を適正に行える人材を確保しつつ、個々の業務でもコンプライアンスが徹底されていくことができると考える。	4・3・2・1	
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4 昨年評価 4	学生便覧には個人情報の取り扱いについて明記し、オリエンテーション時には学生に説明している。 また学内には個人情報保護委員会を設置し、その取り扱いについても詳細に取り決めている。 ＜個人情報保護委員会＞ ・委員長は、個人情報管理責任者（学校長） ・委員は、個人情報取扱責任者、個人情報実務担当者	教職員には毎年、ITリテラシーの受講と日本プライバシー認証機構（JPAＣ）の研修を受けて、教職員全員が個人情報保護について学習している。法律は今後も改定されていくものであり、法律変更等の情報共有できる学園体制はあるので、学内各人がすみやかに理解できるように努めていく。	4・3・2・1	
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4 昨年評価 4	平成27年度より準備し平成28年度より実施している。また令和4年度については、第三者評価も受審している。	学校全体と各部署での評価を行い、意見を取りまとめて学校評価をしていく体制を引き続き継続していく。	4・3・2・1	
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか	4 昨年評価 4	自己点検・自己評価の結果についてはホームページ上で公開している。	今後も分かりやすくHP上で公開していく。	4・3・2・1	
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4 昨年評価 4	学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会規定を基に委員会を開催し、現状の取り組みなどを評価してもらい、委員会メンバーから貴重な意見をいただき、改善点や課題が見え、今後の取り組みに対して組織目的や運営方針を見直している。委員等は付則資料に添付しているが、各学科で職能団体の責任者や業界を代表する方で構成している。	引き続き、委員会メンバーから意見をいただき、今後の取り組みに対して組織目的や運営方針を見直しをしていく。委員等は各学科で職能団体の責任者や業界を代表する方で構成していく。	4・3・2・1	
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	4 昨年評価 4	評価結果をホームページ上で公開している。	今後もわかりやく公表できるように引き続き継続していく。	4・3・2・1	
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4 昨年評価 3	学校関係者評価委員会、ならびに教育課程編成委員会を設置し、学校運営に関するさまざまな意見を公開し、環境整備を行うと共に、学校の基本情報や各学科の教育課程、国家試験の合格率、就職内定率、各学科の取り組みなどホームページを通じて情報公開をしている。	今後も教育内容の情報公開は求められる。国家試験結果、就職内定、就職実績の他も特色ある教育内容など積極的に情報公開に努め、公開するタイミングをより早くできるようにしていきたい。	4・3・2・1	
Ⅹ 社会貢献・地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3 昨年評価 3	新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴い、地域のボランティア活動も従来通りおこなうことができた。地域からのボランティアや地域清掃活動、イベントなどの健康チェック、認知症カフェなどを開催している。学科毎に地域を巻き込んだイベントも検討しており地域貢献が積極的にできるような体制を整えている。	医療系専門学校としてできる社会貢献、地域貢献とは何かを考え、より身近な地域貢献（健康セミナーなど）を積み重ねること、身近にできる社会貢献（地域ボランティアや清掃活動など）を引き続き継続していく。今後も認知症カフェなどを通し、地域との交流・世代間の交流をさらに進めていく。	4・3・2・1	ボランティア活動参加学年は1年生が多く、入学後1か月ぐらいで参加してくれています。一生懸命取り組んでくれてますし、雰囲気がいいですが、2年制・3年生にも参加してもらえるようにしていただきたいと思います。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	3 昨年評価 3	国際交流は海外研修プログラムもあることから積極的に取り組んでいる。全学科2年生で1週間程度の研修を受ける。令和5年度は感染予防・物価高騰等の観点からオンライン対応となった。内容については、世界共通のコミュニケーション言語の英語を学ぶだけでなく、異文化を理解し、広い価値観や視野を得ることができるようにしている。	海外研修は本学の特色の1つであるが、現状はオンラインでの研修であることから、異文化を感じ取れる内容を模索していきたい。海外研修以外にも、出雲は外国人が多いこともあり、海外にルーツを持つ方の学べる場の提供など、外国人のためのボランティアなどで多国籍交流を図ることも検討し、いずれば留学生受け入れも検討していく必要も考える。	4・3・2・1	
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4 昨年評価 4	コロナウイルス5類移行に伴い、ボランティア活動はほぼコロナ前と同様の活動が再開しており積極的にボランティア活動への参加を促している。島根県警のサイバー防犯ボランティアや出雲警察署ボランティアへの参加をはじめ、出雲市総合ボランティアセンターと連携し多くの学生がボランティアに参加している。	引き続き警察署、出雲市、地域コミュニティーセンター等と連携をとり参加支援を行っていく。ボランティアに参加することで、より多くの年代の方と接することができることから多様な価値観を理解してもらえるように支援していきたい。	4・3・2・1	